

東京都農業会議情報

第336号 平成25年9月

編集及び発行 東京都農業会議

渋谷区代々木2-10-12
TEL 03-3370-7145

平成25年度事業報告・歳入・歳出・決算を承認 東京都農業政策に関する建議など決定

第113回東京都農業会議通常総会

都農業会議は8月16日に南新宿ビルで会議員48人の出席を得て、第113回通常総会を開きました。

波多野会長の挨拶に続き、津国都農林水産部長が来賓挨拶を述べ、議事に入りました。

議案は、①東京都農業会議員の辞任の承認、②東京都農業会議員の選任、③東京都農業会議会則の一部変更、④平



挨拶を述べる波多野会長

成24年度事業報告、⑤平成24年度歳入・歳出決算の承認、⑥東京都農業政策に関する建議(2面)の6議案を、いずれも原案のとおり決定しました。

なお、①および②の議案により、遊佐和生氏(JA共済連東京推薦)が退任し、新たに村野英夫氏(同)が東京都農業会議員・常任会議員に就任しました。

当面の農政問題では、成長戦略と農業・農業委員会などをめぐる動向、農業・農村所得増目標10力年戦略、TPP交渉参加の動向など最新の農政情勢を説明し、今後情報も収集しながら対応をはかることとしました。

東京都との意見交換会を実施

都農業会議組織活動検討委員会

都農業会議の組織・活動検討委員会は、9月17日、都農林水産部の幹部職員との意見交換会を開きました。

組織・活動検討委員会は都内農業委員会の地区協議会・連合会の役員で構成し、東京農業の課題を検討するため定期的な開いてます。この日開いた意見交換会に

報告事項として、①平成24年度(平成23年産)農作物生産状況調査結果、②平成24年度農業委員会活動の集約、③認定農業者意向調査結果を報告しました。

また、第59回JA全国青年大会で最優秀賞を受賞したJA東京むさし三鷹地区青壮年部の活動報告を収録したDVDを視聴しました。

委員からは「都内産植木の地産地消を推進すべき」、「区市町村が取り組む生産緑地の追加指定に対し後押しを」など、現場の課題に基づいた要望が出され、真剣に意見が交わされました。

「農業委員会活動推進フォーラム」を開きます

都農業会議は11月21日午後1時30分より、府中市生涯学習センターにて「農業委員会活動推進フォーラム」を開きます。

「農業経営の継続と東京

の農地保全をめざして」をテーマに、都市農業に関する情勢や都市農地保全に向けた制度などについて意見交換をします。多くの方の参加をお待ちしております。



農業の現場が抱える課題について真剣な意見交換が行われた

あぜみち

情報番組で「円安による輸入飼料の高騰と電気代の値上げによる経営圧迫に加え、低迷する価格によって酪農の危機」が報道されていた▼生き残るためには搾乳牛300頭以上の多頭飼育を行い、そのための施設改善をしなければならぬ、というもの▼水田でも畑作でも規模拡大と経営の合理化が叫ばれ、現在成功している事例が最も優れているのかのごとく報道等で見聞きされ、脚光を浴びる▼さらに地元密着で成功している一般法人の農業参入を取り上げ、あたかも法人の参入が我が国農業を救う道であるかのごとく取り上げる▼しかしこれらは一握りの限られた経営であり、また、この先永続できる補償は何もない▼ごく普通の人々が、ごく普通に農業を行なう、家族が楽しく生活できるような農業政策をしなければ、日本農業の根幹が崩れかねない。

東京都農業政策に関する建議要旨

8月16日開催の第113回

東京都農業会議通常総会で決定された「東京都農業政策に関する建議」都内産農産物を都民に届けるための多様な販売対策の構築を」の要旨は左記のとおりです。

1. 学校給食における地場産農産物利用の促進

学校給食を通じて児童が地場産農産物に触れることは食農教育の基本であり、農業者にとっても重要な出荷先である。生産者組織や自治体、学校の取組を積極的に支援するため、関係する部局が連携して地場産農産物の利用を奨励する事業を創設すること。さらに、教育行政と連携して栄養士に対する支援および積極的な情報提供を行うこと。

2. 都内産農産物の広域的な流通方策の確立

安定した流通ルートや新たな販売先を確保したいと考える意欲的な農業者を支援するとともに、消費者に対して都内産農産物や農産加工品を供給するため、次のような施策の展開をはかること。

(1) 農地が無い地域へ向けた

販路開拓の支援

区部の農地が無い地域の消費者ならびに小売業者、飲食業者、加工業者などに都内の農産物を供給する施策を推進すること。また、高齢化社会を迎えるなか「買い物弱者」への対策をはかる消費者行政や福祉対策と連携し、安全・安心な都内産農産物を供給できるとような仕組みを創設すること。

(2) ネット販売の促進

ホームページの開設やネット販売に取り組もうとする農家への支援を強化すること。また、幅広い消費者が都内産農産物に容易にアクセスできるように、多様な手段を使って積極的な情報発信を行うこと。

3. 都内産植木の販売・流通対策の確立

オリンピック開催に挑む都市としてふさわしい環境を整備するため、緑あふれる街づくりの推進が一層重要になっている。そこで、緑化需要における都内産植木の活用を推進するため、都が公共事業で緑化に使用する材料について

は都内産を50%以上使用する規定を設けること。

加えて、苗木生産供給事業については、その稚苗も都内産を原則とし、そのための生産計画と発注について関係団体などと協議を行うこと。また、植木交換会(市場)や都民向けの販売を行うための安定した場所を確保すること。

4. ウメ輪紋ウイルスの確実な根絶と風評被害の発生防止

ウメ輪紋ウイルスの根絶に向けた対策を一層強化するとともに、苗木類も含め風評被害の発生を防ぐための対策を早急に講じること。

特に一般都民や流通業者、小売業者がウメ輪紋ウイルスに対する正しい知識のもとに根絶対策に協力し、安心して果実や苗木類を販売・購入できるように積極的な啓発を行うこと。

5. 東京農業の役割や魅力の積極的なPR

新鮮さはもとより、安全・安心・環境にも配慮して生産している東京農業の実態やその多面的な役割、生産物の魅力を都民に広く啓発するため、積極的なPRを行うこと。

常任会議員 だより

第5回常任会議員会議

平成25年8月16日に開催し状況は次のとおり。

議事

農地法の規定に基づく都知事諮問は、第4条1件575.54㎡、第5条4件1537㎡について審議し、許可相当と答申する旨決定した。

第6回常任会議員会議

平成25年9月17日に開催し状況は次のとおり。

議事

農地法の規定に基づく知事諮問は、5条2件232㎡について審議し、許可相当と答申する旨決定した。

協議

農業委員会活動推進フォーラム開催要領(案)を協議し、11月21日(木)に府中市生涯学習センターで開催することを決定した。

今年度は「農業経営の継統と東京の農地保全をめざして」意欲ある認定農業者等と農業委員会・消費者が共に築く」をテーマとし、多数の参加をお願いすることとした。

当面の農政問題

① 全国農業会議所が実施する「農」のある暮らしづくり支援対策事業」により、農業所得と不動産所得などとのバランスについての標準・最適モデルの作成、都市農地が永続的に保全される制度・施策などの検討を行うことを説明した。② 「収用で買い換えを行った、若しくは買い換えができなかった事例調査」の概要、③ 9月5日に開催された自民党都市農業研究会の検討状況、④ 平成26年度農林水産予算概算要求のポイントなどを説明した。⑤ 内閣の経済政策会議のうち農業関連の動向について説明した。規制改革会議では、農地関連規制の見直し、また、農業ワーキンググループでは、農地の利活用・保全における農業委員会の在り方、農業者・消費者に貢献する農協の在り方などが検討事項とされていることから、全国組織と連携し対応をはかることとした。

東京都農作物生産状況調査結果概要

都農業会議は、東京都の委託を受け、平成23年産の東京都農作物生産状況調査をとりまとめました。

本調査の実施にあたりましては、調査対象者各位はもとより、農業委員会をはじめ区市町村、JA、関係機関より多大なるご協力をいただきましたこと、あらためてお礼申し上げます。

また、本調査は、平成19年産以降、毎年、実施するものです。

本年度につきましても、本調査の実施につきましてご協力を賜りますこと、あらためて、お願い申し上げます。

ここで、調査結果の概要などを報告します。

【調査名】
東京都農作物生産状況調査
(平成23年産)

【調査対象期間】
平成23年1月～12月

【調査対象区市町村】
49区市町村

(農地のある都内区市町村※
北区を除く)

【調査対象者】
農業経営面積10アール以上

の農家。もしくはそれに準ずる農家

【対象作物】

野菜・花き・果樹・穀類・
工芸作物・植木・グランドカバー

【調査項目】

作付面積、出荷量(花きなど)、生産本数(植木)など

① 調査対象者

1万5千137戸

② 調査回収

1万949戸(回収率約72・3%)

③ 有効回答

1万162戸(有効回答率約67・1%)

【調査結果概要】

東京都全体・地区別・区市町村ごと

① 農業産出額Ⅱ4ページに掲載

② 農業産出額順位(野菜・果樹・花き・工芸作物のみ対象)Ⅱ4ページに掲載

③ 作付のべ面積Ⅱ4ページに掲載

④ 平成19年産～平成23年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

⑤ 平成23年産～平成24年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

⑥ 平成23年産～平成24年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

⑦ 平成23年産～平成24年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

⑧ 平成23年産～平成24年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

⑨ 平成23年産～平成24年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

⑩ 平成23年産～平成24年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

⑪ 平成23年産～平成24年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

⑫ 平成23年産～平成24年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

⑬ 平成23年産～平成24年産地の東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移Ⅱ3ページに掲載

東京都の主要野菜作付面積・収穫量の推移

平成20年度(平成19年産)			平成21年度(平成20年産)			平成22年度(平成21年産)		
品目	面積(ha)	収穫量(t)	品目	面積(ha)	収穫量(t)	品目	面積(ha)	収穫量(t)
こまつな	427	7,354	こまつな	494	9,510	こまつな	476	8,972
ほうれんそう	313	3,547	ほうれんそう	340	3,957	ほうれんそう	325	3,804
キャベツ	252	9,795	ばれいしょ	280	5,622	ばれいしょ	293	5,893
ばれいしょ	237	3,082	だいこん	239	10,102	だいこん	250	10,627
さといも	208	1,788	キャベツ	235	10,289	キャベツ	241	10,598
だいこん	186	5,985	さといも	221	2,285	さといも	216	2,235
ブロッコリー	175	1,635	ブロッコリー	215	2,247	ブロッコリー	213	2,233
とうもろこし	163	1,581	とうもろこし	181	1,673	とうもろこし	189	1,750
えだまめ	156	1,404	ねぎ	153	3,020	かんしょ	162	2,546
ねぎ	141	2,287	かんしょ	148	2,305	ねぎ	152	3,073

平成23年度(平成22年産)			平成24年度(平成23年産)		
品目	面積(ha)	収穫量(t)	品目	面積(ha)	収穫量(t)
こまつな	465	8,960	こまつな	456	8,792
ほうれんそう	331	3,836	ほうれんそう	327	3,755
ばれいしょ	299	5,937	ばれいしょ	296	5,915
だいこん	245	10,259	だいこん	243	10,068
キャベツ	220	9,488	キャベツ	216	9,461
さといも	211	2,135	さといも	207	2,128
ブロッコリー	202	2,086	ブロッコリー	199	2,069
とうもろこし	178	1,639	とうもろこし	178	1,635
かんしょ	161	2,348	ねぎ	160	3,138
ねぎ	156	3,137	かんしょ	158	2,320



東京都農作物生産状況調査結果概要

H25.9

区 分	作付面積 (ha)	農業産出額 (千万円)	農業産出額順位(野菜・果樹・花き・工芸農作物の順位のみ掲載)				
			1位品目	2位品目	3位品目	4位品目	5位品目
目黒区	4	2	トマト	ぶどう	なす	きゅうり	こまつな
中野区	5	3	トマト	カリフラワー	きゅうり	ブルーベリー	なす
大田区	3	1	シクラメン(鉢物)	こまつな	ほうれんそう	パンジー・ビオラ(苗もの)	かんしょ
世田谷区	163	44	花き類	トマト	こまつな	ぶどう	えだまめ
杉並区	59	33	トマト	なす	えだまめ	かんしょ	ばれいしよ
板橋区	19	5	トマト	ぶどう	ばれいしよ	だいこん	かんしょ
練馬区	276	119	キャベツ	トマト	ぶどう	えだまめ	ブルーベリー
足立区	120	78	こまつな	えだまめ	ムラメ	きく(切花)	トマト
葛飾区	73	37	こまつな	えだまめ	トマト	ねぎ	キャベツ
江戸川区	186	147	こまつな	トマト	しんとり	えだまめ	たかな
特別区計	908	470	こまつな	トマト	えだまめ	キャベツ	ぶどう
青梅市	408	109	トマト	なす	ばれいしよ	ねぎ	きゅうり
福生市	10	5	トマト	かんしょ	パンジー・ビオラ(苗もの)	なす	サルビア(鉢もの)
あきる野市	306	105	トマト	なばな	なす	とうもろこし	ねぎ
羽村市	44	20	トマト	パンジー・ビオラ(苗もの)	ねぎ	なす	にんじん
瑞穂町	171	82	トマト	パンジー・ビオラ(苗もの)	なす	きゅうり	ねぎ
日の出町	84	27	トマト	なばな	ブルーベリー	ばれいしよ	かんしょ
奥多摩町	35	19	わさび	みょうが	ばれいしよ	しいたけ	トマト
檜原村	34	14	ばれいしよ	トマト	さくらそう(鉢物)	シクラメン(鉢物)	はくさい
西多摩計	1,091	381	トマト	なす	ばれいしよ	ねぎ	なばな
八王子市	784	266	トマト	こまつな	なす	ほうれんそう	ブルーベリー
町田市	497	196	トマト	なす	ほうれんそう	こまつな	かんしょ
日野市	137	96	日本なし	トマト	ブルーベリー	なす	ぶどう
多摩市	35	13	トマト	ブルーベリー	なす	ばれいしよ	ねぎ
稲城市	135	132	日本なし	ぶどう	トマト	なす	かき
南多摩計	1,588	703	日本なし	トマト	なす	こまつな	ほうれんそう
立川市	354	111	トマト	ほうれんそう	こまつな	日本なし	うど
武蔵野市	44	24	トマト	日本なし	ぶどう	えだまめ	こまつな
三鷹市	209	94	トマト	ぶどう	なす	ブルーベリー	えだまめ
府中市	130	94	日本なし	こまつな	トマト	ねぎ	ぶどう
昭島市	61	30	日本なし	トマト	こまつな	なす	ほうれんそう
調布市	158	72	トマト	こまつな	ぶどう	えだまめ	なす
小金井市	80	36	トマト	かき	みずな	こまつな	なす
小平市	232	108	日本なし	トマト	えだまめ	こまつな	ぶどう
東村山市	173	87	日本なし	トマト	かんしょ	ぶどう	パンジー・ビオラ(苗もの)
国分寺市	163	61	トマト	ブルーベリー	えだまめ	なす	うど
国立市	44	16	こまつな	ほうれんそう	トマト	日本なし	なす
西東京市	180	105	トマト	こまつな	日本なし	キャベツ	ほうれんそう
狛江市	42	20	トマト	えだまめ	なす	ねぎ	ブルーベリー
武蔵村山市	145	53	こまつな	ほうれんそう	トマト	日本なし	なす
東大和市	64	26	日本なし	トマト	なす	ほうれんそう	だいこん
清瀬市	231	86	ほうれんそう	にんじん	みずな	こまつな	トマト
東久留米市	205	89	ほうれんそう	トマト	こまつな	えだまめ	だいこん
北多摩計	2,513	1,112	トマト	日本なし	ほうれんそう	こまつな	えだまめ
多摩地域計	5,193	2,196	トマト	日本なし	ほうれんそう	こまつな	なす
大島町	233	44	ブバルディア(切花)	あしたば	ツバキ(実)	ガーベラ(切花)	フリージア(球根切花)
利島村	157	5	ツバキ(実)	しどけ	あしたば	サクユリ(球根)	—
新島村	25	13	あしたば	かんしょ	たまねぎ	レザーファン(切葉)	トマト
神津島村	17	12	あしたば	レザーファン(切葉)	ミニトマト	トマト	かんしょ
三宅村	46	28	あしたば	キキョウラン(切葉)	ドラセナ(切葉)	レザーファン(切葉)	かんしょ
御蔵島村	7	2	あしたば	シキミ(切枝)	—	—	—
八丈町	364	180	フェニックス・ロベレニー(切葉)	フリージア(球根切花)	あしたば	フェニックス・ロベレニー(観葉鉢もの)	シェフレラ類(観葉鉢もの)
青ヶ島村	19	3	とうがらし	かんしょ	フェニックス・ロベレニー(切葉)	さといも	ばれいしよ
小笠原村	13	11	パッションフルーツ	マンゴー	レモン	ミニトマト	トマト
島しょ計	880	300	フェニックス・ロベレニー(切葉)	あしたば	フリージア(球根切花)	レザーファン(切葉)	ツバキ(実)
東京都計	6,981	2,965	トマト	こまつな	日本なし	ほうれんそう	なす

※ 植木と畜産は除く

町田市の農業施策・農委会活動など研究 東京都と神奈川県農委会職員研究会が共催

農業委員会職員現地研究会開く

都農業会議は、9月6日に、都農業委員会職員研究会、神奈川県農業会議、神奈川県農業委員会職員事務研究会と共催をし、町田市で農業委員会職員現地研究会を開きました。

東京都と神奈川県の農業委員会の職員が、ともに研究会を開くのは、昨年に続き、2回目となりました。

本研究会では、まず、都農業会議より都内の農業委員会の活動などについて説明をし、引き続き町田市農業委員会より、農委会活動の状況や農地利用集積円滑化事業について報告がされました。

さらに、現地研究として、町田市の新規就農の状況などについて、円滑化事業により



挨拶で町田市の農業を紹介する鈴木農業振興課長

新規就農した相川さん、麻生さん、渡辺さんより話しを聞きました。



町田市研修農場の取り組みを紹介する吉川町田市農委会長

東京都へ「要望」の実現を要請

東京都農業経営者クラブ

都農業経営者クラブ（清水武男会長）は9月9日、都に対する要請を行いました。

区市の農業経営者クラブ会長など役員らが都庁を訪問し、津国農林水産部長に6月の総会で決定した「東京農業の確立に関する要望」を手渡して実現を要請しました。

また、都農林水産部の幹部らと地域農業をめぐる課題について意見交換を行いました。

都からは新しい事業などについて説明し、農業者側から

瑞穂町・立川市の特長ある農業経営など見学

女性農業委員・職員研修会

都農業会議は、8月23日に女性農業委員・職員研修会を開き、瑞穂町や立川市の特徴的な農業

性農業委員・職員研修会を開き、瑞穂町や立川市の特徴的な農業



トビアリーについて説明する(有)小林養樹園の小林公成代表

経営を見学しました。はじめに、瑞穂町農業委員で養鶏家の上野勝さん夫妻が営む菓子店にて、経営について説明を受けました。

また、瑞穂町で新規就農し、ブルーベリーを栽培している鈴木利喜恵さんの畑を見学しました。

農業と他産業との連携深化狙う パネリストに青梅市の(株)彩の穂の佐藤幸次代表取締役

全国農業会議所が農業参入セミナー開く

全国農業会議所は、9月13日に、農水省で農業参入セミナーを開きました。

これは、農業と他産業との連携を深め、相互の関係を築いていくことを目的に開かれたもので、会場には、各自自治体の農地関係担当者や農業参入を志向する企業の担当者など約200人が集まりました。

第1部のパネルディスカッションでは、農地を借り農業参入した企業の担当者など5人のパネリストによる議論が進められました。

パネリストのひとりとして参加した青梅市の(株)彩の穂

立川市では、法人経営でトビアリー生産を行う小林養樹園や、有機野菜の生産と直売を行う鈴木農園と、鈴木農園の野菜などを材料に使用しているパン屋「ゼルコバ」を観察しました。

また、新しくオープンしたファーマーズセンター「みのりれ立川」も見学し、参加者はそれぞれの見学先で、積極的に意見を交わしました。



農地を借り(株)彩の穂の佐藤幸次代表取締役を紹介しながらの参入経緯を話す(株)彩の穂の佐藤幸次代表取締役

穂の佐藤幸次代表取締役社長は「山採りの穂だけでは限界があり農地を利用したいと考えた。そのときに地元に加藤信也農業委員が親身になって農地のあっせんや栽培の相談を受けてくれたことがすべて。青梅市の協力も多大。とても感謝している」と話しました。

永年勤続表彰・講演会開く

東京都農業委員会職員研究会が全体研究集会開く

東京都農業委員会職員研究会(石田昭男会長)は、8月30日に、全体研究集会を南新宿ビルにて開きました。

はじめに、第39回永年勤続表彰を行い、会員11名が表彰されました。(写真)

引き続き、調布コミュニティビジネス(CB)推進委

清瀬市ひまわりフェスティバル開く

清瀬市では、8月17日〜9月1日にかけて「清瀬ひまわりフェスティバル」が開かれました。

これは、市民に都市農地を身近に感じてもらうと「清瀬市農ある風景を守る会」が毎年実施しており、今年で6回目を迎えました。



一面に広がるひまわりが来場者を出迎えた

員会『調布アットホーム』の石原靖之代表を迎え「地域活性化とコミュニティビジネスと農業」をテーマに記念講演を開きました。

石原氏は、まず、コミュニティビジネスとは何かを説き「地域にある問題は多種多様にわたっており、解決をは

清瀬市農ある風景を守る会

地元小学生などが種まきを行った10万本のひまわりが、約6万人の来場者を楽しませていました。

かつていくためには、地域に埋もれている人材を活用し、小さなビジネスとして、両者



表彰を受ける世田谷区の坂本雄次さん(左)

「農のあるまちづくり」実現に向けて協議

小平市農のあるまちづくり推進会議

「小平市農のあるまちづくり推進会議」は、都市に農業や農地が定着した「農のある

を結びつけていくことが大切である」と話し、伊豆諸島の農水産物と調布の飲食店を結びつけた具体的な取り組みなどを紹介しました。

表彰者は左記の11名です。

- 坂本 雄次(世田谷区)
- 広瀬 智子(世田谷区)
- 北条 弥生(杉並区)
- 及川 光枝(板橋区)
- 中村 重夫(足立区)
- 國見 史(江戸川区)
- 和田 達也(あきる野市)

「食と農セミナー」を開きます

都農業経営者クラブと農業会議は、東京の農業者と消費者が共に学び新たな関係を築く場とするため、都消費者月間実行委員会と共催で「食と農セミナー」を開催します。

日時 平成25年12月6日(金)、午後2時より
会場 中野区・中野サン

プラザ13階コスモルーム

主な内容 ①島村菜津さん(ノンフィクション作家)

による講演「東京でこそスローフード&スローライフ」、②農業者と消費者の意見交換会

参加を希望される方は区市町村の農業委員会事務局へお申し込みください。



講演会でコミュニティビジネスについて話す石原靖之氏

- 山下 恭二(八王子市)
 - 佐々木伸昌(稲城市)
 - 長谷川 誠(日野市)
 - 白石 智秀(清瀬市)
- (敬称略)

10月〜11月の日程

- 10・3(木) 農地利用促進方策現地研究会
- 10・11(金) 経営部長研究集会
- 10・17(木) 常任会議員会
- 10月28日(月)〜29日(火) 会長現地研究会(兵庫県姫路市)
- 11・7(木) 賛助員協議会
- 11・15(金) 監査会
- 11・21(木) 常任会議員会
- 11・28(木) 農業者年金研究会
- 11・29(金) 島しょ地区別検討会
- 農委会活動推進フォーラム